

# せいりょう園

[発行] 社会福祉法人はりま福祉会 特別養護老人ホームせいりょう園

〒675-0016 兵庫県加古川市野口町長砂 95-20 TEL 079-421-7156 FAX 079-421-6422

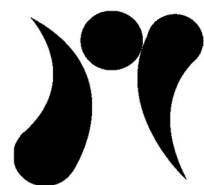
令和2年1月 第227号 年間購読料1,000円 (1部100円)

メール seiryoen@bb.banban.jp ホームページ <http://www.seiryoen.or.jp>

## 令和の初春を言祝い —老いと幼児体験がつないだ「人と社会とその歴史」に倣って—

令和元年11月23日(土)の毎日新聞朝刊『女の気持ち』に姫路市の66才の主婦の『幼児体験』と題する投書が載っています。『私が生まれた頃には、もう祖母は寝たきりだったらしい。ベッドも簡易トイレもなかった時代に、周りのみんなは大変だったろうと思う。私はといえば、祖母の布団に潜り込んで昔話を聞くのが大好きだった。小学1年の秋に、祖母は家族に見守られながら息を引き取った。一人っ子の夫と結婚して二十数年後、義父が車椅子の生活になった。その頃には介護保険制度ができていて、随分助けられたけど、毎朝、シーツや布団カバーを洗濯するのが日課になった。清潔を心がけたつもりでも、少しずつ尿の臭いが染みついていった。そして、桜吹雪の日に義父を、その6年後の早春に義母を見送った。今は、高齢者住宅に入居している母をできるだけ訪ねるようにしている。92才にしては丈夫で、頭もしっかりしている。けれど、先日、部屋のドアを開けた途端にきついアンモニア臭がした。寝ている間に尿漏れして布団についたらしい。母が言い訳をしそうになったので、「その年になったら当たり前のことや。うちとこもそうやった。」と、義父母の介護のことを話すと、「あんたが(嫁ぎ先で)おじいさん、おばあさんの世話をしとってよかった」と、ホッとしたように言った。でも、それはちょっと違うと思った。その昔、祖母からも同じ類の臭いがした。けれども、誰一人嫌がることなく、普通に暮らしていた。その幼児体験が、60年以上たった今も私の身に染みこんでいる。ただそれだけだと思う。』

『縄張り』を創って暮らす野生動物は、自分の守備範囲の木や岩に尿や便を塗り付けて自らの勢力範囲を誇示すると言われます。動物にとって排泄物の臭いや体臭は、生存本能を支える重要な役割を担っているのです。人間も自然界の一員であり、本能と習性は消え去ることはありません。成長過程で身に着けた「知性や理性や体力」は老いに連れて徐々に失いますが、『本能として身に着いた五感』は、死の瞬間までその身に寄り添います。その『五感に染み込む幼児体験』は生涯を支える『原体験』と成り、吾身に起こる様々な『変化』を受容れ、親の老いと死を受容れ、吾身の老いも死も受容れ、死後にも続く他者との関係性をつなぐ『絆』の役割を果たす重要なものだと思います。(次ページに続く)



(前ページの続き)

人間は他の動物と比べて『誕生後の養育期間』が特に長く、15才以上が一人前として生産年齢人口に数えられます。更に人間は、生殖機能を失った後も他の動物と比べて長く生きる動物で、最近では40年近くも生き永らえます。そして老いて終焉を迎える際は、群から離れる猿とは違い、『集団の中』で仲間に身を委ねます。現在では平均して10年程度、『要介護の身』を委ねます。人生の最初と最後の『仲間に身を委ねる養育と要介護の期間』は、人が社会を構成する上で極めて重要な『思想と社会性』を養い引継ぐ為の『互いにつながり合う営み』であり、予防ではなく『準備』と『覚悟や心構え』が重要だと思えます。

人間が創る『社会』は、猿が創る『群』とは全く違います。人間の先祖でもある猿とその群の習性は、1000年前も今も殆ど変わりませんが、人間が創る社会は1000年前とは大きく違っています。絶えず変化しながら1000年～2000年とその歴史を続けて来たのです。人間は、遺伝子で引継ぐ本能や習性以外に、生活過程で生じる変化に対して『順応する術とその成果』を、世代を超えて引継いで来たが故に、永く歴史が続いて来たのだと考えられます。

1970年代前半に年間約200万人が生まれた団塊ジュニア以降、毎年出生児数が減り続けて令和元年は86.4万人と予測されています。一方では同時並行で平均寿命と高齢化率が延び続けて「70才・7%」の時代から、今では平均寿命81才～88才・高齢化率28%、人生100年の時代です。

元気で健康で100才を目指す多数の高齢者を横目で見ながら、多くの若者達が『子を産み育てる喜び』に出逢えずにいます。最も基本的な本能である『種の保存本能』が退化したのか？現状では日本社会の歴史が途絶え兼ねません。此の40数年の間に我々は『大きな忘れ物』をして来た様に思えます。

12月7日の読売新聞朝刊『時代の証言者』に『令和の心万葉の旅中西進37』として『人生は割り勘より全払い』の一文が載っています。その最後の段に『死とはなんでしょう。木が枯れる、野菜がしなびるといいますね。これは水分がなくなることです。そして「かれる」とは「離れる」ことで、人は呼吸を止め、魂が離れるとほんとうの死がやってくると古代の日本人は考えました。……草冠の「葬」という字をごらんください。死という字の上にも下にも草がありますね。形を変えて自然に帰っていくのでしょうか。金属だって錆びますね。あれと同じです。この錆びるといっても自然に帰ることです。だって、日本刀がキラキラしているのは人間が手を加え、不自然にしたからで、錆びることで鉄は本来の姿に戻るんです。わび・さびの精神を最高の境地と云ったのが芭蕉です。わびしさもさびしさもなく、いつまでも元気いっぱいというのでは、いやらしい政治家みたいになってしまいます(笑)。』

枯れてしなびて自然に帰る命と、新たに生れ出る命は共に、相当に長い期間その身を仲間に委ねます。我々は「いつまでも元気いっばいの老い」を求めらる中で、『大切な幼児体験の機会』を見失い、忘れて来てしまった様に思えます。

70才を超えた団塊の一員として、吾身が枯れてしなびて自然に帰る過程で、孫や曾孫が多くの幼児体験を重ねて欲しいと願います。しなびた吾身が、彼らの『五感の中』でよみがえって生き永らえるよう、心より願っています。

## 秋のお茶会【令和元年11月11日】



グループホーム 高瀬 美咲  
(介護福祉士)

春はおはぎを作ってお花見へ行き、夏は流しそうめんとスイカ割り、秋にも何かできたらいいなと思い、お茶会を企画しました。事前に入居者の方に食べたいものを聞いてみると「クッキー」「パン」「アイスクリーム」と声があり、一番多かった意見は「ケーキ」でした。外で紅葉を見ながらお茶会しましょうと伝えると「それいいね!」「賛成!」「気候が良くなるからええね」と楽しみにされていました。せっかくなので、お茶会の前に好きな食べ物を選んでもらおうと思い買い物に行くことにしました。

晴々とした中で行うイメージをしていましたが、当日はどしゃ降りの大雨と雷でした。できるのかなと少し不安になりましたが、雨が止んだタイミングでマルアイへ買い物に行きました。外の景色を見ながら「大きなミカンがなってるよ!とってみよう!」という声が聞こえてきたり、車を見て「ようけ通りよるな」と話されたりしていました。信号待ちをしていると地域の方に「今日は買い物の日ですか?」と声をかけて頂きました。今日はケーキやおやつを買って外でお茶会をするんですと伝えると「それはいいですね!」と言って下さいました。店内に着くとAさんはカゴを持って勢いよく、とり天・カレーパン・天丼・パン粉・平天など入れていました。沢山入ったきなこチョコを取り、「こんな食べ物いな!」と笑顔でした。みたらし団子を大事そうに抱えている方や「みんなで食べられる物がいいね」と4個入りのシュークリームを選ぶ方「1円でも安く・・・」とおせんべいを選ぶ方、みなさんいろんな思いで買い物を楽しんでいました。又、お店の入り口に花束が売ってあり「キレイですね~」と地域の方とお話ししている方もおられました。前半5名、後半5名に分かれてお店に行ったので多くの方が参加できて良かったです。戻ってくる頃には11時すぎでした。朝は雨が降っていたので外に椅子やテーブルの準備もできておらず、お昼ご飯の時間も迫っていましたが「せっかくやから外でしよう!」と職員みんな協力しました。外で温かいレモンティーを飲みながら購入したおやつと、グループホームで作った干し柿も合わせて秋らしいお茶会ができました。みたらし団子を食べていると、美味しそうに見えたようで「私も食べたい!」と声があり、他のおやつもみんなで分け合いました。生クリームとチョコレートのケーキが一番人気であつという間になくなっていました。干し柿も美味しかったようで1人で3つも食べている方や「家に柿の木がたくさんあったんよ」と思い出して話をして下さる方もおられました。皆さんの喜ぶ姿を見て私も嬉しい気持ちでいっぱいです。

グループホームのご家族や、通りがかった他部署の入居者の方、職員、ボランティアの方も一緒に干し柿を食べました。お茶会の後はすぐにお昼ご飯でおにぎりとけんちんうどんでしたが、ほとんどの方は完食しており食欲の凄さに驚きました。紅葉の時期としては少し早かったようで葉の色が少し色づいている程度でしたが、来年は鮮やかな時に行きたいと思いました。私達にとっては身近なスーパーですが、入居者の方はなかなか行く機会がなかったので今回は気分転換に外出でき「また行こうね」と言ってもらえたので良かったです。自分で好きなものを選ぶこと、美味しいものを食べることは楽しみの一つです。今後も入居者の皆さんが喜んでもらえる企画を実行していきたいです。



サービス付き高齢者住宅「自愛の家・さくら」は、眺望を考慮して3階部分をオーバーハング状に張り出した設計としています。その建物の懐に抱かれるように立っている樹齢数十年の『桜の木・染井吉野』は、家族との談笑や利用者同士が交流される広場の『主木』として、毎年春には美しい花を咲かせます。桜吹雪が舞い散った後は葉桜となり、新緑の時を経て蝉が鳴く夏は盆踊りの提灯に映え、秋には紅葉して長く皆さんの目を楽しませ、初冬の地表には赤と黄色の“枯れ葉の絨毯”が丸く浮かび上がります。

そんな区域をあたかも『桜守り』の如く、冷たい風が吹く中でも黙々と落ち葉を掃いておられたのがNさんでした。「Nさん、いつも掃除して貰ってすみませんね」とお礼を言うと「皆んなが使う場所やから綺麗にしておかんとなあ。体も動かしかんとあかんしなあ」との言葉が口癖でした。

Nさんは認知症の症状が現われ、車椅子修理のボランティアの一員だった関係もあり、ケアハウスに入居されたようです。入居初期の頃は『男性の料理教室』に参加し「包丁捌きがとっても上手だった」と担当者の言。更に週2回の健康体操『自彊術』にも参加され、指導者の先生は「そう言えば皆勤賞でしたよ。マイペースでしたが、朗らかで場を乱すこともなく一生懸命でした」との印象を持たれています。

一方、毎週水曜日の『音楽療法』では、季節に応じた童謡や唱歌を歌いながら、タンバリンやカスタネット等の楽器を鳴らします。そして参加者全員が一糸乱れぬ演奏をして、歌と楽器の音がピタッと揃って終わった時、Nさんは指揮者になったように興奮され、右手拳を突き出し「よっしゃー！」と掛け声をあげ、喜ばれていました。指導される先生も心得たもので、直ぐさま漫才で言う“ツッコミ”を入れ、茶化されたNさんは軽口で返し、その掛け合いによって教室に笑いが充満しました。

ある日Nさんは、3時のおやつが終わった時「あの連中（他の利用者の方々）の支払いは、自分に“付け”ておいてくれ」と、真剣な眼差しで私に言いに来られました。この時私は「あの方達の利用料は、もう戴いてるから支払の必要は無いですよ」と一生懸命“説得”しました。そして何とか“納得”してもらおうと別の表現で説明した時、突然「わしが支払うと言っているんや！」と、キッとした表情に変貌し憤慨されました。私はその姿を見て一瞬“あっ、そうやった！認知症の方にはご自分の世界が有るんやった…”と思い直し、「わかりました、高めに！“付け”ておきますよ」と対応を変えました。頭で理解していても咄嗟の対処が出来なかったことを、大いに反省しました。

Nさんは郷里の志方町で『製作所』を設立し、靴下編み機の製造販売をされていました。この原稿作成の為、訪問した菩提寺のご住職からは「この地域の靴下産業は、縫製の海外シフト等で激動の半世紀でした。そんな中、Nさんは余程嬉しかったのか“これが従業員一丸となって開発した特許の油圧バルブです”と言いながら自慢の製品を見せてくれた」とお聞きしました。病状が進行し『現役時代と生きている』とでも言うのでしょうか“連中はうちの会社の社員や、苦勞かけているから…”とその時思ったのでしょうか、経営者の矜持と従業員を気遣ってきた優しさが窺えた瞬間でした。

2019年1月2日、阿部寛主演「下町ロケット特別編」がテレビ放送されました。資本金の小さな町工場の社長が、GPSを利用した無人運転トラクター開発で、“特許”を武器に大企業の社長に対し「日本の農業を守る為には、信頼性が高く低コストの機械を作るのが、我々業界の役目ではないのか！」と経営理念を熱く語るシーンを見た時、私はふっと“あれっ、ひょっとしてNさんも、この社長と同じような経営をしていたのでは？”と思ったのです。ご家族

にこの時の思いを伝えると「そうです、義父は生前“何事もどこかで良いアイデアがある！”  
と言うのが口癖でした。どんな時に閃いたか分かりませんが、靴下を編む時の絡まり防止の  
為に、掃除機の吸引技術からヒントを得て、“特許”を手に入れようと奮闘していました」と  
の事でした。

Nさんの特許取得など知る由のない私が、お正月に見たドラマの中にNさんの存在を意識  
した事、ロケット開発から農業機械変革へと展開していく物語と同じような技術開発が、こ  
こ加古川市内でも成し遂げられていた事、そして、Nさんの思い出を機関誌に投稿する役割  
を与えられた事、これら一連の出来事に不思議な『縁』を感じています。

1月11日、「Nさんが急に亡くなられた…」との連絡を貰い通夜式も終わった式場に行きま  
すと、数多い供花にお棺が囲まれ極楽浄土のようでした。焼香し般若心経をお唱えしてお顔  
を拝見した時、不意に「たどりついたら岬のはずれ・赤い灯が点く…」と石原裕次郎が歌う  
「北の旅人」の一小節が浮かんできました。約30名が参加される『のびのびルーム』のカ  
ラオケでNさんが必ず歌う曲で、あの柔らかい声質と、鼻腔を響かせて甘い雰囲気を感じ  
させるビブラートをかけ、情感を込めて歌われました。北海道の顧客への営業等で歌唱力を  
身に付けたのでしょうか、私達はそんなNさんを「せいりょう園の裕次郎」と、親しみを込め  
て呼んでいました。

一方、日常生活面では「Nさんはいつも黙って、車椅子の方や目の不自由な方の介助をし  
てくれました」と、普段からケアハウス食堂で一緒に食べる方々から聞きました。

そのNさんが1月10日皆さんと昼食の最中、突然食卓の上に顔を突っ伏して息を引きら  
れたとの事。一言も発せずに苦の表情も無かったようで、後日その様子をデイサービス利用  
者の方々にお伝えしたところ、皆さん驚きの表情とともに「ええお参りやなあ、私もそんなよ  
うに逝きたいわ」と、異口同音に言われました。

そして、大往生とも言えるNさんの、告別式ご会葬礼状の冒頭には「父は、人の喜びを自  
身の幸せに出来るとても温かい人でした」と、故人を追慕するご遺族の心情が記されていま  
した。

合掌

## 令和元年度第4回運営推進会議報告

せいりょう園では平成21年度から介護保険制度に基づき運営推進会議を設置しま  
した。ご家族や地域の住人、関係機関の方々に参加していただき、公表すべき情報を  
報告し、議論を重ねてきました。

日 時：令和元年11月28日（木）14:00~16:00

場 所：せいりょう園リバティかこがわ2階

事業所：地域密着型介護老人福祉施設、定期巡回随時対応型訪問介護・看護  
グループホーム、グループホームまどか

参加者：地域代表 4名 行政担当 1名 医療担当 0名

家族代表 3名 職員 13名 計 21名

内 容：行事報告・ひやりはっと事故報告（9、10月 158件）

実習生受け入れ報告（13名受入れ）

介護について語ろう会報告（10、11月）

ターミナル報告（2名）・身体拘束適正化委員会報告

意見交換・お知らせ





小学校の授業で「職業人と語ろう」というものがあります。例えば消防士やグラフィックデザイナーなどのさまざまな職業人が小学校に集まり、自身の就いている職業についての紹介や思いについて語る、といった授業です。生徒たちの将来を考えるきっかけづくりとなるこの授業に今年もせいりょう園は「介護福祉士」として参加しました。10月24日に野口南小学校、12月3日に野口小学校に行ってきました。

授業を行うにあたり事前に打ち合わせを行いました。打ち合わせでは、「介護の仕事を理解してもらうにはどうすればいいか」「そもそも老人ホームという場所を知っているのだろうか」「将来介護職になりたいと思ってもらえるような授業にしたい」「介護職として人が亡くなる最期の瞬間に立ち会うことができる魅力を伝えたい」といった意見が出ました。そして話し合った結果、介護職としての日々の業務を説明するだけでなく、小学生に質問をして対話をし、印象に残るような授業にしようということになりました。

当日授業が始まりました。授業ではまず生徒達へ「介護福祉士のブースを選んだ理由」「介護福祉士という言葉聞いたことがあるか」について質問しました。興味があって来た生徒もたまたま来た生徒も、介護福祉士について知っている生徒も知らない生徒もいました。「介護職がどんなことをする仕事なのか」については「人を助ける仕事」「身体の不自由な人をサポートする仕事」といった答えが返ってきました。私たちはその答えに付け加えて「何でもかんでもしてあげるのではなく、本当にその人が必要なことだけを手伝う。できないことだけを手伝う」といったことを説明しました。「どうしてそう思うと思う？」の質問には生徒達も「筋肉が衰えたり、忘れたりしてどんどんできなくなるから」等答えてくれました。また「君たちが自分でできることを明日から誰かが全部代わりにしますってなったらどう感じる？」との質問には、しっかりと想像してくれたのか嫌そうな顔を浮かべていたのが印象的でした。

「せいりょう園にいるお年寄りが施設を出ていく時はどんな時か？」といった質問には「元気になったら」「お世話してくれる人が見つかったら」との答えが返ってきました。「ほとんどのお年寄りが、せいりょう園を出るときは亡くなった時」であることを伝えるとびっくりする生徒が多く「ショックだ」という生徒もいました。その後授業を進めてからの先輩職員の言葉が私は凄く印象に残っています。

「確かにショックだし悲しいことかもしれないけれど、老人ホームでお年寄りが自然に亡くなる最期の瞬間に立ち会えるのは介護職しかない。僕たちの仕事は決して華やかじゃないかもしれない、何かヒット商品を生み出すわけでもない。それでもこの仕事には魅力がある。お年寄りも昔は子どもの時代があって、働いて結婚して子どもができて、たくさん笑ってたくさん泣いてたくさん怒って、いろいろな思い出が詰まったその人生の一番最期の場面に立ち会うことができるのがこの仕事の魅力」

私自身はっとさせられ凄く良いなあ、と思いました。生徒たちに少しでも伝わってくれればいいなと思いました。

また私は介護福祉士とは別に、介護支援専門員としての職業も生徒たちに紹介させて頂きました。これまで介護支援専門員の仕事について誰かにじっくり話す機会がなく、どういう風に話せば介護支援専門員の仕事が伝わるだろうかと悩みました。悩んだ結果、生徒達には「お年寄りや、周りの人達と話し合っよりよい生活、楽しい生活ができるように一緒に考えるのが仕事」

「例えば〇〇君の宿題が上手にできるように〇〇君と話し合っ一緒に計画を考えるのが仕事」といった風に説明しました。はたして生徒たちに介護支援専門員の仕事がうまく伝えられたのかは今でも分かりません。またもっと具体的に介護支援専門員とはこういう仕事だと伝えられないものだろうかと感じ、その為の自身の経験が不足していることに気づかされ、もどかしい思いをしました。もっと介護支援専門員としての自分の有り方を見つめ直さなければいけないと感じました。

「職業人と語ろう」に参加することで新たな刺激を受け自身の仕事を振り返るととてもいい機会になりました。より生徒たちの前で胸を張って職業を語れるように精進して参りたいと思います。

## 介護について語ろう会【令和元年11月22日】

看護師 椿 佳織

今回のテーマは【感染症について】です。

感染症のなかでも冬季つまり11月頃から少しずつ流行するインフルエンザとノロウイルスを中心に話をしました。そして参加された方にインフルエンザに罹らないためにどのような事に気を付けているか尋ねました。①毎年インフルエンザの予防接種を受ける。②手洗い、うがいの励行。③バランスの良い食事をする。④睡眠をしっかり確保している。⑤人混みはなるべく避け、必要時はマスクを着用する等の意見が多く聞かれたように思います。

参加者の中にインフルエンザに罹った事があると言う方が2人おられ、体験談を聞かせていただきました。予防接種は事前にしていて、特に発熱はなかったがいつもと違った体のだるさがあり、病院で検査したところインフルエンザと診断されたそうです。もう一人は同じく予防接種をしていましたが、突然の高熱、頭痛、倦怠感等の症状が現れ、3日間程は死ぬかと思った程辛かったそうです。食欲もなくプリンやヨーグルトなどしか食べられなかったと話されていました。同じように予防接種をしていてもその人の体力や免疫力によって症状も様々です。特に大切なのは、インフルエンザに罹らないよう日頃から気を付ける事です。病院受診のタイミングとしては、発熱後12時間が目安です。そして家族がインフルエンザに罹ったら、部屋を分けて、食事は一緒に食べず別で摂り消化の良いおかゆやスープ等食べて脱水予防に努めましょう。部屋に加湿器を置くなど乾燥予防に心掛けましょう。

次にノロウイルスについての話です。参加者の中で生カキを食べてノロウイルスを発症された方がおられ、その体験を話していただきました。生カキを食べて4時間程で激しい腹痛があり、我慢できずに夜間急病センターに受診されその後入院となったそうです。多くの生カキはノロウイルスを持っていると言われてます。カキを食べる時は十分に加熱処理してから食べる事が大切です。そしてノロウイルスに感染した場合、感染力がすごく強いので移らない為に便や吐物の処理に気を付け、素手で触らず、マスクや手袋を着用し、感染予防に努めてください。便や吐物汚染した衣類は、ハイター消毒してから別に分けて洗濯するなど配慮しましょう。

今回の語ろう会で、思っていたよりも感染症に罹った人が少ない事に驚きました。インフルエンザもノロウイルスも基本的な予防法は同じです。普段からしっかり食べて、十分な睡眠をとり、手洗い・うがいを意識して行っていく事が大切であると感じました。

高齢者の方や持病がある方は免疫力や体力も低下しており、特に感染症に罹ると脱水症状などを起こしやすく、重症化しやすいと言われてます。日頃から感染症に罹らないよう心掛けましょう。





## 初詣【令和2年1月8日】



令和になり初めての初詣、浜の宮天神社へ。

令和2年を迎え、早速の異常気象ともいえる暴風。前日から予報では荒れると予測され、中止の声もありましたが、判断は当日まで待つことに…。当日、行く直前まで雨風でしたが、晴れ間が見え、天候は一時的に回復。風は強めでしたが、神社には太陽の光が差し込み、入所者、ご家族、ボランティアさん、施設長、スタッフの総勢40名、車は7台使用し大移動。お一人のご家族は娘さん、お孫さん、曾孫さんと4世代と一緒に参拝して下さい、なかなか見られない光景だなと思いました。

天候のように、何が起こるかわからない日々が待っていますが、自然と向き合い、一日一日を大切に、安心した生活が送れますようにと祈願し、無事に参拝することが出来ました。

特養生活相談員 福田 真希



### 【お知らせ】

- ① 介護について語ろう会 毎月第4金曜日 14:00~15:00 参加費無料
    - ・1/24 「認知症を考える(第3回)」
    - ・2/28 「りょうえんカフェ一番星」
  - ② 男性の料理教室 毎週金曜日 13:30~15:00 1回500円
- [問合せ] せいりょう園 Tel(079)421-7156



### 【せいりょう園空き情報1月15日現在】



- ・サービス付き高齢者向け住宅リバティかこがわ：5室
  - ・サービス付き高齢者向け住宅自愛の家さくら：2室
  - ・グループホーム：空きなし ・グループホームまどか：空きなし
  - ・ケアハウス：空きなし ・グループハウス岸本邸(ツヅカ)：2室
- [問合せ] せいりょう園 Tel(079)421-7156/(079)424-3433